

今回は裏鉄門について検討します。

裏鉄門については、広報つやま9月号の津山城百聞録で少し書きましたが、史跡整備に伴う発掘調査により全容が明らかになりましたので、再度その変遷なども含めてまとめてみます。



北東側から見た裏鉄門発掘調査の写真

裏鉄門の発掘調査結果は、上の写真のような状況でした。門の礎石は一部が抜き取られていたものの、四隅が残っていたためその規模が判明しました。それによると幅約8メートル、奥行約4メートルの西向きの門で南側に番所を持つ構造のものでした。下の絵図と比較しても南側の6畳の番所部分など、礎石の配置もよく一致しています。また、門の西側には雨落溝が存在し、そこに落ちた水は門の下の暗渠排水を通して流れていくことや、さらにその溝が木製の樋から石製のU字溝に付け替えられていることも明らかになりました。



写真と同じ部分の絵図(津山城資料編から)

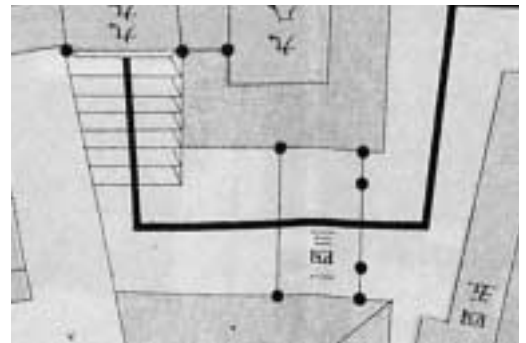
津山城百聞録

44 津山城の築城過程5 〜再建されなかった裏鉄門〜

また、絵図には裏鉄門の東側に小さな長方形の建物が書き込まれています。これは「大小一対」のトイレです。写真を見ると、該当の部分に丸い桶を抜き取った痕跡が認められ、実際にこの場所にトイレがあったことが分かります。これは番所に詰めている人のためのトイレでした。

この門はその名の通り、門の外側が鉄板で覆われた、搦手から本丸御殿に直接通じている重要な門でした。ところが、文化6年(1809)に起こった本丸の火災によりこの門は消失してしまいます。

火災以降の絵図には、この裏鉄門は記載がありません。大正6年(1917)に制作された「津山温知会誌付図」では、裏鉄門の部分には「裏鉄御門焼址」と、その奥の「裏切手門」の部分には「仮裏鉄御門」と記載されており、裏鉄門は火災後に再建されず、裏切手門が仮の裏鉄門として使用されたまま明治を迎えたようです。



津山温知会誌付図(津山郷土博物館蔵)
一四三が裏鉄門。建物がなく、礎石だけが表示されている左上の九九が「仮裏鉄御門」

仮裏鉄門とされた裏切手門は、本丸御殿の通路の下に設けられた小さな門です。このような門を本丸への直接の入り口に使用するという事は、明らかに城としての防御を放棄した考え方です。平和な時代であったからこそ裏鉄門は再建されなかったのです。

世界の観光名所には、日本人が書いたと思われる落書きが多数あるそうです。市内でも神南備山の展望台に落書きが見つかり、先月、市民のみなさんによって消去作業がされました。あなたは、なぜ落書きをするのですか？みんなの迷惑を考えると、みてください。(ひ)

市重要文化財の指定になった八出天満宮本殿の写真撮影に行きました。何枚か写真を撮り、帰る前に後側も見てみようと思いいらうと、そこにあるのは…本殿でした。もう少しで拝殿だけ撮ってホイホイ帰るところでした。セーフ。(e)

木々の葉が色づき始め、街路樹も美しい色合いになってきました。ある日、車に乗ろうとドアの取っ手に手を触れたとたん「パチッ」。この時期になると、やっかいな静電気がいたずらをする。みなさんも、された経験ありませんか？(郁)

編集後記

今月の納税

介護保険料6期
納期限：12月1日(月)

ひとの動き

(10月1日現在)
人口 90,124人(前月比+19)
男 42,963人(同5)
女 47,161人(同+24)
世帯数 34,848世帯(同+17)

9月中の異動数

出生 81人、死亡 69人
転入 234人、転出 227人

11月

2003

編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社

